

## 食品急送

食品急送(樺谷智春社長、北海道石狩市)は自社開発の労務管理システムを活用し、時間外労働の削減に取り組んでいる。個々の拘束時間や業務内容などをリアルタイムで表示するほか、拘束時間が設定値を超える警告音が鳴る。運行管理者がその場で業務内容を調整することで過剰な残業を未然に防ぎ、24年問題の対策につなげている。

システムは、2016年に導入。それまでは、日報に入力されたデータを10日ごとに参照し、労働時間が長くなりそうなドライバーがいる場合には、その都度調整や指導を行っていた。しかし、10日(1)との判断では対応が間に合わないことが多く、ドライバーや運行管理者の負担が大きかった。新システムでは、個々の

## 拘束時間超過に警告音 業務変更 その場で連絡

過去10日分の累積拘束時間や超過残業時間などに加え、当日の拘束時間を3分ごとに更新して表示。時間が長い場合、ドライバーにその場で連絡し、コースの変更や代理ドライバーの派遣といった対策を行えるようになった。

また、拘束時間が長いドライバーは黄やオレンジ、赤、グレーなどの色付きで表示し、事前に設定した時間を超えると該当ドライバーが帰社するまで警告音を



アルコールチェッカーに息を吹きかけるだけで自動的に名前や出退勤の時間が入力

鳴らし続ける仕組みを取り入れ、管理者による見逃しを防止している。

更に、ドライバーが出退勤時に運転免許証を機械に読み込ませ、アルコールチェッカーに息を吹きかけるだけで自動的に名前や出退勤の時間が入力されるため、それまでの手作業による手間やミスがなくなった。

加藤義和・情報システム部長は「24年問題が話題になる前から危機感を持って時間外労働の削減に取り組んできた。データの共有や検証を重ねて、より精査したい」と話している。

(高清水彩)